

# ミズバショウ

*Lysichiton camtschatcense* (L.) Schott  
サトイモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は 10 か所以下で、生育地、個体数とも限定される。

## 分 布

北海道～本州（中部地方以北の日本海側）に分布する。県内では大野市、勝山市、福井市で確認されている。

## 種の特徴

湿地山地に大きな群落をつくる多年生草本。発芽直後の葉間中央から純白の仏炎苞と呼ばれる苞を開く。仏炎苞の中央にある円柱状の部分に小さな花が多数集まった花序がある。開花時期は低地では 4～5 月、高地では融雪後の 5～7 月にかけて。葉は花の後に出る。

## 生育を脅かす要因

森林伐採、湿地の乾燥化、踏みつけ、園芸採取が生育を脅かす大きな要因となる。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	○

# ナベクラザゼンソウ

*Symplocarpus nabekuraensis* Otsuka et K.Inoue  
サトイモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

## 選定理由

2002 年に新種として記載された種で、県内での生育が少ないと判断されるが、情報が不足している。

## 分 布

本州（岩手県～福井県）に分布。県内では南越前町で自生が確認されている。

## 種の特徴

多雪地帯の水湿地に生育する多年生草本。草丈 20～50 cm。葉は腎円形で、普通長さより幅のほうが広い。花は葉の展開と同時に咲き、仏炎苞は暗紫色で小型、長さ 5～8 cm 程度。花は葉の展開後成熟する。

## 生育を脅かす要因

水湿地の乾燥化、温暖化の進行による生育環境の変化が生育を脅かす要因となる。

参考文献 大塚孝一ほか（2002）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○									

# ハナゼキショウ

*Tofieldia nuda* Maxim. var. *nuda*  
チシマゼキショウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

県内では 3 地区で生育が確認されてる。

## 分 布

本州（関東地方以西）、九州に分布する。県内では敦賀市、越前市、大野市で確認されている。

## 種の特徴

山中の岩場に生える。根出葉は線形で長さ 5～25 cm、先は長くとがり、縁に細かい突起がない。花茎は高さ 10～30 cm。7～8 月、白色の花が総状花序につく。蒴果は卵状楕円形で花被片よりやや長い。

## 生育を脅かす要因

森林伐採、園芸採取、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会（2001）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○						○				○	